

漢字学習おける
板書の工夫
 対象:新任の先生

漢字学習の進め方???

漢字の指導は思っていたより難しいな・・・

1つの字を教えるだけでも時間がかかるな～

どうやって教えるといいんだろう?

漢字学習の流れ

- 1、本時の目標
- 2、読み方
- 3、書き順
- 4、ポイント
- 5、漢字の意味
- 6、言葉集め
- 7、文作り

1、本時の目標

- 学習する漢字を予告

- 書き順に合わせて色分けした漢字を見せる。

画数の多い漢字は、「へん」と「つくり」に色分けする

2、読みの指導

- 音読み→カタカナ
- 訓読みは→ひらがな



シ ャ ャ ャ
ン は る

3、書き順

・書き順の指導



- 新出漢字の練習
- 画数→ノートに書く



『三』と『人』と『日』
で春
(3色で色分けしてもOK)

子どもの方を見
て空書き

4、ポイントの指導

- とめ、はね、はらいに注目



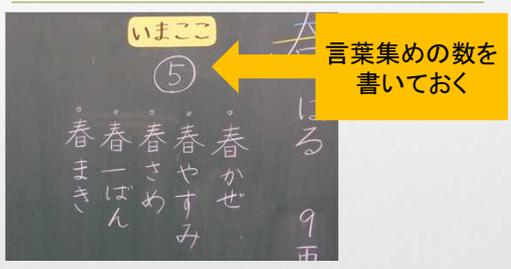
5、漢字の意味

- 字の意味
- イメージする絵
- 覚え方



6、言葉集め

言葉の発表



対象: 支援学校教員

★ **輝け!** ★
サブティーチャー! ★

～美術・キャッチボールで絵を描こう! 編～

ある日の美術



サブティーチャーの思い

- ・ちゃんと話をきいてもらわなきゃ!
- ・先週と同じ内容だから、やり方知ってるよ!
- ・自分の担当の生徒をしっかりみよう!
- ・授業を盛り上げないと!



主担者の思い 

- ・注意するのはいいけど、私の声が届きづらいな...
- ・生徒の発信する態度に気づいてくれたらな...
- ・生徒に向けてきいてるはずなのに...
- ・生徒の反応をみたいのに...
- ・年配の先生に伝えづらいな...



サブティーチャー、主担がどのように動いたら良かったのでしょうか?

4点に絞ってまとめました。



① 本時のねらいを共通認識。

(例)

- 1 素材に興味をもたす
- 2 ボールをよくみる
- 3 友達とのやりとりを大切にする

どれか1つ、
がんばろうね。

ろつできる子
は、ろつが
んばってみよう。

② 生徒が主担者に意識をむけるように促す。

ボール
が落ちる
よ～

〇〇ちゃん
は、どの色
がすき
～？



③ 教師がモデルになる。

転が
すよ～

あのよう
にすれば
できるん
だあ～！



④ 主体的な動きを引き出す



輝くサブティチャーとは！！

- ★ 役割を理解し
- ★ 周りの環境を整え
- ★ 生徒に寄り添える先生！



完成作品



ブラックライトにあてると・・・↑

対象:高等学校教員

高校における教室環境について
～ユニバーサルデザインの視点から～

はじめに

- *高等学校には、支援の必要な生徒が多数在籍している。
- *障がいのある・なしに関わらず、「多様なニーズのある生徒」への対応の前提に、環境整備の工夫が必要である。
- *まずは、教室環境の整備という面から、各学校の取り組みを参考にしたい。

教室整備の例

- 1、教室の整備<毎日できること>
黒板の清掃、机の並び方の整備
- 2、黒板の利用方法<行事・進路>
(前・後ろ)
～書く内容と書き方の工夫～
- 3、定期考査時の黒板の利用方法
～テスト範囲の一元化～
- 4、掲示物の工夫
～内容ごとに整理～

1、教室の整備<毎日できること>
①黒板の清掃

前の黒板



*授業の始まりを意識させるために、きれいに拭いておく。
*一日の終わりにきれいに清掃

②机の並び方の整備



明日のために
列を整える

2、黒板の利用方法<進路>(1)

<前>



「今日の時程」を示す・時間を明確化させる
見通しがつき、スムーズに活動に入ることができる

座席表の提示

黒板の利用方法<行事>(2)

<後ろ>

見通しが持てるよう1か月分の
予定を書いておく



黒板の利用方法(3)

<後ろの黒板②>

大清掃の手順を具体的に示す



3、定期考査での黒板の利用

諸注意が書いてある。

前の黒板

後ろの黒板

テスト範囲が教科ごとに張り出されている



4、掲示物の工夫(1)

同じカテゴリーでまとめる

掲示する場所を決めておく



掲示物の工夫(2)

*学校で統一した規則は、どの教室にも掲示する



まとめ

- ⇒ 環境整備の工夫をすることは
- ⇒ どの生徒にとっても学習に集中しやすい
- ⇒ 整然とした教室は、教師が生徒の様子を把握しやすい

ユニバーサルデザインの視点

多様な生徒にとっての学びやすい環境づくりが、実は教師にとっても多様な生徒たちへの理解の向上や支援につながる！

対象: 新任者

授業のユニバーサルデザイン・ 学習形態の工夫

私の工夫1

課題 授業の導入がうまく行かない

開始前

- ・ 2分前には入室 黒板のチェック念入り
- ・ とことん拭きまくる 集中しやすい環境を整える

導入

- ・ 開始2分 生徒の状態チェック
- ・ 衝突回避のために丁寧に
- ・ ここで時間が延びることを恐れない

目標

- ・ 開始8分までに前回の復習と今日の目標の明示

丁寧・明るさ・やさしさ・親しみやすさ・ですます調で
体調不良・興奮している者を押さえつけず、自然な状態からキャッチ
さりげなく他の者に知らせ、情報を収集し、原因も探る

私の工夫その2

課題 古典のノートがうまくとれない

行間2行空け、口頭で指示にもかかわらず、詰めて書いてしまう生徒

見本となるノート (印刷は白黒で)

クラスの全員にイメージしやすいよう、教師のノートを印刷して配布

手書きノートの印刷物を配布するのは

いつ?
学年当初のみ始めの時間に配布し説明する。
次の単元からは本文を写して 読みを記入し
品詞の横に傍線を引いてから配布する。

どう使う?
一文ずつ口頭で説明して、その都度手本を参考に
写すよう指示する。

なぜ?
縦書きの場合、黒板とノートでは1行の文字数が倍
ほど違うので、板書通りにはノートに書けないから。

結果 全体的な質の向上 提出率のアップ

評価

どれだけうまく写せたか

↓

工夫・かわいい・整理されたノート

↓

作って楽しいノート
見直して楽しいノート

自主的にノートを作り出す生徒が増え始める

**行間の取り方を理解
色を用いて識別が容易に**
行間の取れなかった生徒のノートに変化が現れた

生徒のノート1 他の生徒は色の使い分けで工夫

生徒のノート1 他の生徒は色の使い分けで工夫

生徒のノート2 口語訳の場所や語の意味の書き分けができています

その他付箋を貼ったり、文法書のコピーを貼ったり、様々な工夫が現れた

生徒のノート2 口語訳の場所や語の意味の書き分けができています

見本を配ることでポトムアップになり、全ての生徒のノートの質が向上した。

**2. 本編 私の工夫その2
課題 手も足も出せない作業**

活用表はグループで

話し合い	<ul style="list-style-type: none"> ・担当部分を決める ・個人によって配分変化
作業	<ul style="list-style-type: none"> ・活用表を埋めましょう ・班の中で教え合い
完成提出	<ul style="list-style-type: none"> ・期間巡視で質疑応答 ・評価はグループ単位で

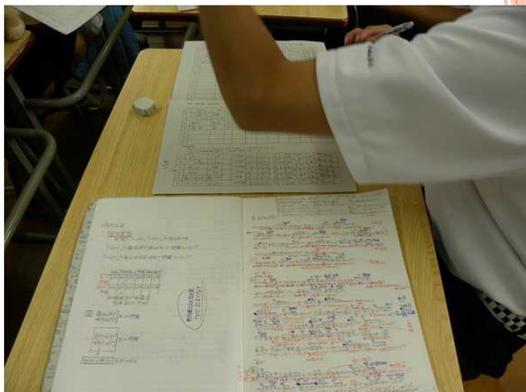
責任感や協調性、授業展開の変化を利用してやる気を引きだすねらい

作業風景

寝ている生徒がいなくなった



作業風景 ノートを活用して



結果 みんな提出・評価につながる
寝ている子は激減 楽しそう

わからない子に自然に教える

全く何もしない はいない

楽しい作業
仲間意識

注意すべき生徒への配慮

単なる怠けなのか、気持ちはあるができないのか。慎重に見守り、場合によっては配慮する。配慮が必要な生徒は、クラスの中にかなり潜んでいる。そのことは大前提とふまえて授業に臨むこと。

落ち着かない

- ・関係のない私語
- ・立ち歩き
- ・集中できない

できない

- ・聞き返しが多い
- ・言ったとおりにできない
- ・聞き取りが苦手

無気力

- ・眠ってしまう
- ・班に加われない
- ・対人関係苦手

さぼる生徒は方法をいくら変えてもいつもさぼるので、識別できる。

対象: 校内新転任研修

視覚障がい特性をふまえた授業

視覚障がい特性をふまえた授業

- 1、視覚障がいとは
- 2、授業するにあたって
- 3、障がい特性をふまえた授業の心がけ

1-(1) ①視覚障がいとは(盲)

盲: 点字を使用し、主として聴覚や触覚を活用

- ・全盲(光を感じていない)
- ・明暗弁(光を感じ明暗がわかる)
- ・手動弁(眼前で手の動きがわかる)
- ・指数弁(眼前で指の本数がわかる)

まわりの環境
把握が難しい

視覚情報が
得られない

模倣が
できない

1-(2) ②視覚障がいとは(弱視)

弱視: 両眼の視力が0.3未満で通常の文字(墨字)を利用し、視覚による学習が可能

見え方: 十人十色



ぼやける

まんなか
みえない

まわりが
みえない

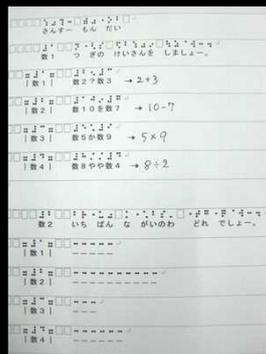
小さいものや
細かい部分が
わかりにくい

大きいものの
全体把握が
難しい

立体感・
遠近感が
わかりにくい

2-(1) ①文字・点字(読)

- ・かな
- ・数字
- ・アルファベット
- ・記号、符号
(化学記号、点字楽譜等)



2-(1) ①文字・点字(書)

タイプライター(凸左→右)

あお→ ● ● ● 表(凸)
:書き・読み

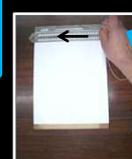


点字盤(凹右→左:鏡文字)

○ ○ ○ ←おあ 表(凹)
:書く

あお→ ● ● ● 裏(凸)
:読み

裏返す



2-(1) ②文字・墨字

見やすい文字

読みやすい文字 — 速度が関わる

* 読みやすい文字の大きさ調べ

→12~32ポイントの大きさのプリント

(縦書き・横書き、教科書体・ゴシック体)

1分間に読める文字数を計測

筆記具: 自分で文字確認できる濃さ

ノート: 罫線がみえにくい場合は、罫線の色が太くて濃いもの

2-(2) ①わかりやすい学習環境

・点字化: 点字教科書(例: 小2算数 1~5巻)

・音声化: 音訳(DAISY)

・触察: 実物・模型

・机: 大きめ(縁あり)



2-(2) ②みえやすい学習環境

・拡大化: 拡大教科書(22・26・30Pt)

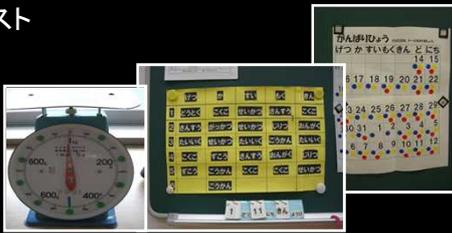
* 縮小化: 周囲が見えない(視野狭窄)

・コントラスト

・単純化

・照明

・机



2-(3) 教材・教具

近くを見る
(ルーペ、拡大読書器、書見台、タブレット端末)

遠くを見る
(単眼鏡)



定規

三角定規・分度器・分回し

レーザーライター

2-(4) 机上の環境例



障がい特性をふまえた授業の心がけ

- 1、全体像の把握
- 2、指先を目とする探索
- 3、模型や現物教材の使用
- 4、実体験や動作化を伴うことばの学習
- 5、時間に関する配慮で繰り返し学習
(指導内容の精選)

特別支援学校小学部 新任教諭対象

授業のねらいを伝える意義とその示し方

授業のねらいの意義とは？

ねらいを伝えることで...

- ①子どもの学習活動への意識を高める。
→ねらいがわかることで、それを意識して取り組める。
- ②指導者の授業に対する意識を共有する。
→TTの中での支援の程度を整理できる。

■具体的な授業の事例を通して、
ねらいを伝える具体的な方法を紹介する。

紹介する実践の概要

- 事例1 園芸活動や調理実習など、
生活の授業におけるねらいの伝え方
- 事例2 ゲーム形式での算数指導における
ねらいの伝え方
- 事例3 公共交通機関の利用の仕方など、
校外学習事前指導における
ねらいの伝え方

事例1-1

視覚教材でねらいを伝える ～生活「じゃがいも栽培」の“手作り”視覚教材～

- ねらい ①じゃがいもの成長がイメージできる。
②じゃがいもの植え方（手順）がわかる。
③手指をしっかり使い、友だちと楽しく植える。

ねらい①のための教材 『手作り絵本 じゃがいも』

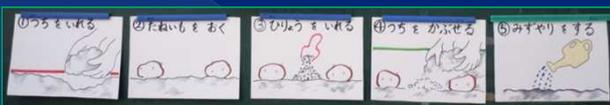


ポイント

「みず」「おひさま」「おおきくなるよ」「土の中ではどんなことが起
こっているかな」「おおきくなったら、みんなでもほりをしようね」

事例1-2

視覚教材でねらいを伝える ねらい②③のための教材「手順カード」 (と、「実演用セット」)



ポイント

手を使う
赤い線まで入れる・緑の線まで入れる
始まりと終わり ここまでがんばる

「自分でわかって 自分でできる」ための「手がかり」

事例1-3

視覚教材でねらいを伝える ～調理実習「たまきずし」の導入教材～

ねらい 具を「えらぶ」楽しさや、「巻き方」がわかる

ポイント

「どれにしようかな」
「こうするんだ！やってみよう」



事例2-1

教科指導のねらいを伝える
～算数の指導事例から～

児童の実態

- ・10までの数唱はできるが、具体物を数えると間違えてしまう。
- ・不規則に並んだものでは、数え間違えが多い。また、間違えに気づかない。
- ・興味の少ない学習では、よそ見をすることが多い。

学習のねらい

○具体物を用いて10までの数をかぞえる。

事例2-2

教科指導のねらいを伝える
～算数の指導事例から～

☆題材として子どもの興味関心のある「さかなつりゲーム」を設定。



ねらいを示す工夫 →

ねらいを意識できる
手がかりを、授業の
中に散りばめる！

①「いくつつけたかな？」を授業のキーワードにする。

②ねらいである「具体物で数える」ことを補助する教材を提示する。

③数えるときには、声に出して全員でかぞえる。

いくつ
つけたかな？

↑授業で示したカード



事例3-1

体験型教材で「ねらい」を伝える
～校外学習「天王寺動物園」事前指導例から～

校外学習事前指導のねらい

- ・公共の場や交通機関の利用の仕方やマナーを学ぶ

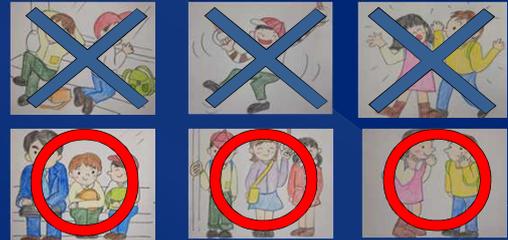
体験型教材を用いて学習すること

- ◎子どもたちにとって
 - ・見たり、聞いたりしたことを模擬体験することで理解を深めたり、確認したりすることができる。
 - ・模擬体験を通して、実際の活動をイメージし自分で行ってできることが増える。
- ◎教師にとって
 - ・それぞれの子どもへの支援の程度がわかる。
 - ・子どもの行動の予測を考える手掛かりになる。

事例3-2

ねらいを伝えるために

- 公共交通機関のマナーを学ぶ
☆視覚的な教材より



事例3-3

- ・公共交通機関の利用の仕方を学ぶ
(切符の買い方・改札の通り方・車内でのマナー)
☆体験型教材より



※教師作成のオリジナル券売機



◎教師が児童役になって、実際の授業の様子を再現した動画です。(1分30秒)

まとめ

ねらいを伝えるために大切なこと

- ①授業のねらいを明確に設定する。
(子どもがわかるような言葉で)
- ②ねらいの示し方は、ことばで伝えるだけでなく、視覚教材・体験教材・キーワードなど、様々な手段がある。
- ③ねらいを軸にした教師間の共通理解があることで、個々の実態にあった指導支援が可能になる。

初任者研修対象

授業の振り返りの意義と方法



本日の流れ

1. 「振り返り」の学習活動が注目される背景
2. 「めあて」を意識した授業の振り返り
3. 「振り返り」の学習活動の実際
4. まとめ

「振り返り」の学習活動が注目される背景

特別支援学校学習指導要領（平成21年）
第1章 総則 第2節 教育課程の編成
第4 「指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項」

新たに追加

(7) 各教科等の指導に当たっては、児童又は生徒が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れるよう工夫すること

「振り返り」の学習活動が注目される背景

特別支援学校学習指導要領解説（平成21年）

具体的には

授業の冒頭に当該授業での学習の見通しを児童生徒に理解させたり、授業の最後に児童生徒が当該授業で学習した内容を振り返る機会を設けたりといった取組の充実

「振り返り」の学習活動が注目される背景

特別支援学校学習指導要領解説（平成21年）

「見通し・振り返り」の活動を通して

児童生徒の学習意欲が向上するとともに、児童生徒が学習している事項について、事前に見通しを立てたり、事後に振り返ったりすることで学習内容の確実な定着が図られ、思考力・判断力・表現力等の育成にも資するものと考えられる

「めあて」を意識した授業の振り返り



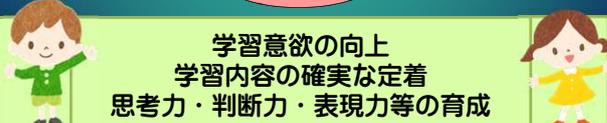
事前めあて

事後振り返り

「めあて」に対する振り返り

学習活動

学習意欲の向上
学習内容の確実な定着
思考力・判断力・表現力等の育成



「振り返り」の学習活動の実際

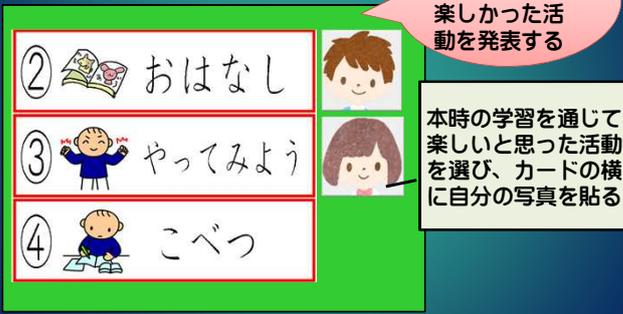
デジタル機器の活用



- デジタル機器を活用して、活動時の様子を映し出し、振り返りを行う
- 良かった点や課題のあった点に分かりやすいように、ことばかけをしたり注視を促したりする

「振り返り」の学習活動の実際

活動カード・写真の活用

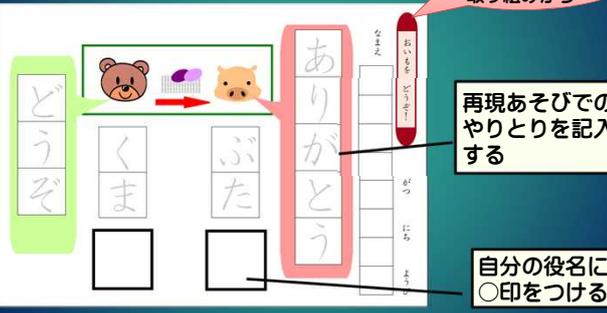


活動カードと写真を使って、楽しかった活動を発表する

本時の学習を通じて、楽しいと思った活動を選び、カードの横に自分の写真を貼る

「振り返り」の学習活動の実際

振り返りシートの活用①



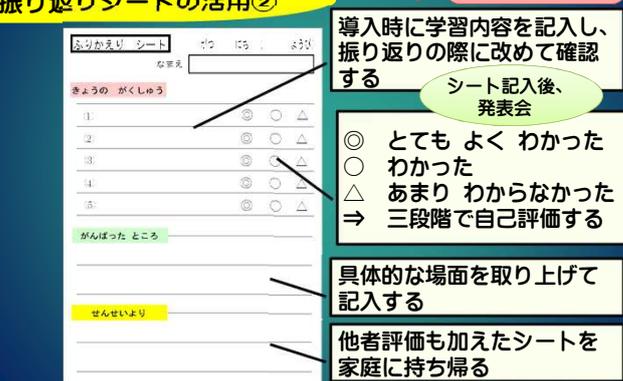
ここにおける「再現あそび」の取り組みから

再現あそびでのやりとりを記入する

自分の役名に○印をつける

「振り返り」の学習活動の実際

振り返りシートの活用②



言語活動を多く取り入れることで、より理解を深める

導入時に学習内容を記入し、振り返りの際に改めて確認する

シート記入後、発表会

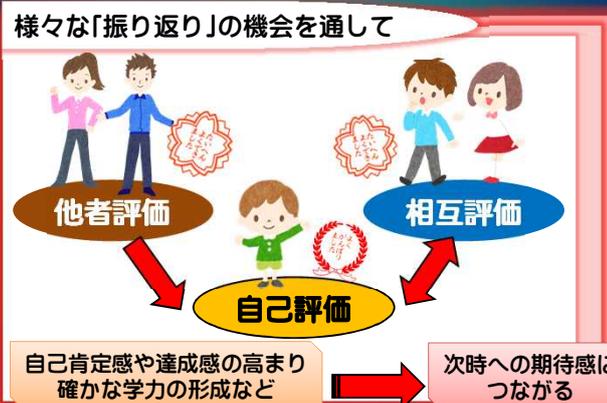
◎ とてもよくわかった
○ わかった
△ あまりわからなかった
⇒ 三段階で自己評価する

具体的な場面を取り上げて記入する

他者評価も加えたシートを家庭に持ち帰る

まとめ

様々な「振り返り」の機会を通して



他者評価

相互評価

自己評価

自己肯定感や達成感の高まり 確かな学力の形成など

次時への期待感につながる

参考文献

太田 正己 著 (2012) : 『知的障害教育の授業展開「まとめ」をきちんとすれば授業の効果が上がる—学習活動「見直し・振り返り」と評価—』 ジアース教育新社

大沼 直樹・井坂 行男 編著 (2008) : 『かすを学ぶ、りょうを学ぶ—身体を通した学びの支援から、知識による学びの支援まで—』 明治図書

藤原 義博 (2012) : 『特別支援学校における効果的な教育的支援—わかって動ける授業づくり—』 大阪府立高槻支援学校教育講演会資料